

「愛知県その道の達人」派遣事業 実施報告書

達人 名	中森 康之 先生 (俳句の達人)	所属	豊橋技術科学大学
実施 校	新城市立作手中学校		
実施 日	平成21年10月13日 (火曜日)		
実施学年・学級	1年A組 (20人) 3年A組 (39人)		
教科等名	国 語	単元・題材名	俳句に親しもう
授業の目標	俳句を作るときの注意点・こつなどのお話を活かして、秋の俳句を詠むことができる。		
授業の実際	 <ol style="list-style-type: none"> 1 達人の紹介を聞く。(教師) 2 俳句のおもしろさと、芭蕉の言葉をふまえた句作のこつ、及び「新城市と芭蕉」についての講話を聞く。(達人) 3 秋の季題で俳句を詠む。(達人・教師) 〔 1年 〕あらかじめ作っておいた俳句を、達人のアドバイスで各自推敲し、短冊に清書する。 〔 3年 〕班 (5人1組) で話し合っ一句詠み、達人のアドバイスを参考に推敲して俳句を完成させ、短冊に清書する。 4 できた俳句を黒板に掲示し、生徒が互いに選句する。(教師) 5 できた俳句について高評を聞く。(達人) 		
児童生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 俳句は苦手だったが、達人に教えてもらったことを活かして作ったら上手にできてとてもうれしかった。1時間しかなくて、残念だった。 ・ 俳句は全部伝えるのではなく、余白が大切だという説明がよく分かった。 ・ 俳句はたった17文字でたくさんのことを伝えられて、すごい。 ・ もともと俳句を作るのは好きなので、とても楽しかった。わたしも「その道の達人」になりたい。 ・ 自分が作る俳句はとても単純で、文章みたいな感じのつまらないものだった。今日達人が教えてくれたこつを活かして作ったら、前よりもよくなってうれしい。これからの授業に活かしたい。 		
教師の感想	<p>修学旅行や体育大会、文化祭など学校行事の折に俳句を詠ませていたが、17音の文章のようになってしまう生徒の句の指導に苦労していた。今回の達人のお話は、芭蕉の言葉をふまえて俳句のこつをわかりやすく生徒に伝授しただけでなく、教師が生徒の作品を推敲させる際のポイントも示唆する大変有益なものであった。</p>		